

3学期にやる気アップ―テストで満点大作戦

「4年生理科の満点大作戦」

いずみ学力研 金井 敬之

はじめに

満点大作戦という久保先生の実践ですが、ぼくは、同時に若い頃に読んだ「すべての生徒に100点を」（加藤文三著・地歴社）を思い出します。

高校に入学できない生徒を出さないように、全員が100点をとり、保護者と生徒に呼びかけながら、再試験をくり返し100点を取らせるといふ実践です。

ぼくはその当時、落ちこぼれをなくす研究会（現・学力研）で勉強を始めたばかりで、岸本裕史先生の著書「すべてのことに確かな学力を」とともに、夢中で読んだことを今も懐かしく思い出します。

当時は、まやかした、点数主義だ、それが学力なのかなどという批判が

あったのですが、加藤さんは、著書の中で「100点を取ると子どもは変わる」と述べています。

加藤実践は、点数で序列をつけれ、子どもや学校を競争させるという学力テスト体制の中で、過去問をくり返し平均点を上げる今の学力向上の取り組みとは決定的にちがいます。

加藤実践も久保実践も、やればできる、自己肯定感を高めるといふ取り組みです。

4年生の理科の満点大作戦

3年前、理科のテストで「満点大作戦」の取り組みをしました。

満点大作戦のねらいは3つあります。

ひとつめは、教科書を読み、要点を文章や絵でまとめるというテスト

勉強の仕方をも身につけること

ふたつめは、ひとりで学習するより、みんなで学習するほうがしこくなる経験をしてほしいこと

みつめは、人に伝える（教える）ことでより理解が深まるという体験をしてほしいこと

ふだんと同じように、授業をすめます。そのあと、上質紙1枚に絵と文章でテスト範囲をまとめます。

その際、子どもたちがまちがいやすいところを教師が事前にチェックし、「キーワード」「重要ポイント」などといって、子どもたちに伝えます。（ここが大事です）

早く終わった子は、ノートに、問題づくりをするように伝えます。

班でお互いに問題を出し合って、答え合いをします。

テストの結果は、（表）100点が18人、90点が13人、80点が1人で、（裏）50点が30人、30点が1人でした。